

参加者アンケート集計結果

2010年8月1日(日)に開催した「ポルトガル語での討論Ⅲー在日ブラジル人家族の状態と心の検討」の終了時、ポルトガル語での参加者アンケートを実施した。ブラジル人の参加者はほぼ数十名だったが、そのうち32名が回答した。以下に集計結果の概要をまとめる。

(アンケート集計・コメント：池上重弘)

性別	度数	パーセント
女性	18	56.3
男性	14	43.7
N	32	100

回答者の性別については、女性が56%、男性が44%で女性の方が多かった。2008年10月に実施した第1回では、回答者49名中、女性が57%、男性が43%だった。また、2009年6月開催の第2回では、回答者73名中、女性が44%、男性が56%だった。今回は第1回同様、女性が多かった。

結婚歴	度数	パーセント
独身	7	21.9
結婚	18	56.3
離婚	5	15.6
死別	0	0.0
別居	1	3.1
無回答	1	3.1
N	32	100

回答者の結婚歴については、結婚している人が56%で約6割を占めた。2009年の第2回は教育がテーマとなったため、家族滞在者が多かったが、メンタルヘルスがテーマの今回は、離婚した人の比率が16%で前回の10%より6ポイント高い。離婚がメンタルヘルスに及ぼす影響に関心を持つての参加かもしれない。

年齢	度数	パーセント
16歳未満	0	0.0
16～20歳	0	0.0
21～30歳	2	6.2
31～40歳	6	18.8
41～50歳	16	50.0
50歳以上	8	25.0
N	32	100

回答者の年齢分布は41～50歳が50%で最も多く、次いで50歳以上が25%となっている。一方、10代、20代の回答はなかった。経済危機に伴う雇用環境の激変により大きな影響を受けた40歳代以上の層が高い関心をもって参加した点が、今回の特徴と言えよう。

子ども

	度数	パーセント
いない	11	34.4
いる	21	65.6
無回答	0	0.0
N	32	100

子どもを持つ回答者は約 66%だった。
 子どもがいると回答した 21 名に対して子どもの年齢をたずねたところ、相対的に年齢が高かった。今回の参加者の年齢層が高いことによっているものと思われる。

住まい

	度数	パーセント
浜松市内	25	78.1
浜松市外	7	21.9
N	32	100

参加者の 78%は浜松市内の在住者だった。今回のポルトガル語ディベートが開催された 2010 年 8 月 1 日（日）は名古屋でブラジル人を主な対象とするイベントが開催されており、昨年度とは異なり愛知県以東からの参加者は少なかった。

浜松市外からの参加

	度数	パーセント
磐田市	2	28.6
長浜市	2	28.6
袋井市	1	14.3
湖西市	1	14.3
安城市	1	14.3
N	7	100

2008 年の第 1 回では静岡県内のみならず、東京や愛知県、滋賀県からの参加者があり、2009 年の第 3 回でも同様の傾向が認められた。2009 年の前回は、愛知県 7 名（豊橋市、豊川市、名古屋市、豊田市、安城市、半田市）、滋賀県 3 名（長浜市）、岐阜県 2 名（美濃加茂市）から複数の参加があり、首都圏では東京都、神奈川県、茨城県から各 1 名ずつの参加があった。

しかし、2010 年の今回は浜松市在住の参加者が大半を占め、市外からは、磐田市と滋賀県長浜市が 2 名ずつ、袋井市と湖西市、愛知県安城市が 2 名ずつだった。

日本の滞在期間

	度数	パーセント
0～3年	3	9.4
4～6年	4	12.5
7～10年	6	18.8
11～15年	5	15.6
16年以上	14	43.7
無回答	0	0.0
N	32	100

日本での滞在期間が10年を超える者が多かった。16年以上が44%で最も多く、11～15年が16%となっている。つまり10年を超える滞在者が6割を占めていた。一方、1990年の改定入管法施行からほぼ20年近い年月が経過しているにもかかわらず、滞在期間が0～3年という人もほぼ1割いた。

職業

	度数	パーセント
自動車製造業	7	21.9
電気製品製造業	1	3.1
市役所	4	12.5
事務	3	9.4
派遣会社	0	0.0
ブラジル人学校	1	3.1
県庁	1	3.1
食品製造業	0	0.0
家庭	1	3.1
病院	0	0.0
失業中	4	12.5
その他	12	37.5

回答者の現在の職業についてたずねたところ、もっとも多かったのは自動車製造業の22%だった。失業中との回答は2009年の第2回では36%だったが、2010年の今回は13%とほぼ3分の1になっている。ただし、これは必ずしも景気回復の影響とは言えないだろう。

市役所13%など、行政関係の仕事に従事する者もおり、日本におけるブラジル人の就労分布とはいささか異なる層が参加していたことがうかがえる。メンタルヘルスというかなり限定的なテーマに関心を持つブラジル人が参加した結果と考えた方がよさそうである。

「その他」が38%を占めている点にも注意が必要である。

このイベントをどのようにして知りましたか

	度数	パーセント
雑誌 Alternativa	4	12.5
雑誌 Boa Dica	5	15.6
雑誌 Vitrine	3	9.4
Radio Phoenix	1	3.1
友人	4	12.5
チラシ	24	75.0

今回のイベントをどのようにして知ったかたずねたところ、最も多かったのは前回同様チラシだった。回答者の75%がチラシを見てこのイベントを知ったという。それ以外の媒体は10%前後となっている。他の媒体も友人からの口コミと同程度の効果があったことがわかる。一方、インターネットラジオの広告については、今回はあまり効果がなかったようである。

チラシはどこで入手しましたか

	度数	パーセント
ブラジル店	6	18.9
ブラジル人学校	1	3.1
HICE	10	31.3
西部パレット	0	0.0
ブラジルレストラン	0	0.0
その他	9	28.1

今回は浜松国際交流協会（HICE）でチラシを入手した人が 32%で最も多かった。ピンポイントのテーマであるため、ふだんから HICE を利用するような層の関心を引いたものと思われる。それに続くのは「その他」28%だった。今回もブラジル人向け宅配ピザ店の協力を得て、ピザ配達時にチラシを届けてもらった。「その他」にはこの経路も含まれるものと思われる。ブラジル店でチラシを入手した者もほぼ 2 割りだった。

このようなイベントに参加したことがありますか。

	度数	パーセント
ない	9	28.1
ある	23	71.9
N	32	100

多文化共生関係分野で仕事をしているブラジル人の参加もあったが、今回のポルトガル語討論会のような「カタい」イベントにこれまで参加したことのない人がほぼ 3 割いた点は特筆すべきである。実数こそ多くはないが、ポルトガル語で自由に発言できる機会が保証された討論会に、これまでこうした会には足を向けたことがない層が参加したことがわかる。

一方、これまでに参加したことがあるという回答者について回数をたずねたところ、1 回が 6%、2 回が 13%、3 回と 4 回がそれぞれ 9%、さらに 10 回以上との回答も 15%を占めた。

たしかにこれまで 2 回のポルトガル語討論に顔を出してくれた方で、今回も参加してくれた方もいた。

次回テーマとして期待するもの

	前々回 (2008年)		前回 (2009年)		今回 (2010年)	
	度数 (N=49)	パーセント	度数 (N=73)	パーセント	度数 (N=32)	パーセント
参政権	7	14.3	12	16.7	4	12.5
労働契約	16	32.7	22	30.6	6	18.8
教育	35	71.4	44	61.1	13	40.6
メンタルヘルス	—	—	—	—	8	25.0
日本語	21	42.9	25	34.7	9	28.1
差別	8	16.3	15	20.5	8	25.0
健康保険	13	26.5	29	39.7	10	31.3
年金	22	44.9	31	42.5	20	62.5
帰化	4	8.2	12	16.4	7	21.9
永住権	6	12.2	6	8.2	4	12.5
帰国	—	—	—	—	10	31.3
その他	3	6.1	9	12.3	9	28.1

ポルトガル語での討論会の次回のテーマとして期待するものを複数回答で挙げてもらった。この質問については、選択肢の一部が前々回（2008年10月）、前回（2009年6月）と異なるが、メンタルヘルスと（ブラジルへの）帰国という2項目以外は同じなので、これまでの2回と結果の比較ができるように対比させて表示した。今回の回答で次回希望テーマとして最も多かったのは年金で63%が回答した。今回の参加者の年齢層が比較的高かったことにもよるだろうが、リーマンショック以降日本に留まることを選択したブラジル人にとって、日本での老後の生活を真剣に考えたとき、年金の問題が大きな関心事となっていることがうかがえる。